

主たる写真技術(イメージングテクノロジー)の流れ

※技法名の後の()内は発明、発表年時

第1世代(19世紀前半)

- ・ダゲレオタイプ Daguerreotype (1839)
- ・カロタイプ Calotype (1840)

第2世代(19世紀後半)

- ・コロディオン湿板法 Wet collodion process (1851)
- ・鶏卵紙 Albumen paper (1850)

↑ 写真家が自製

↓ 工業製品

第3世代(19世紀末頃～)

- ・臭化銀ゼラチン乳剤ガラス乾板 Dry plate (1871-78)
- ・ゼラチン乳剤焼き出し印画紙 Gelatin P.O.P. (1882)
- ・ゼラチン乳剤現像印画紙 Gelatin D.O.P. (1873-83)

第3.5世代(19世紀末～20世紀前半期)

- ・臭化銀ゼラチン乳剤ロールフィルム (1889)
- ・スクリーン方式カラー写真乾板(オートクローム Autochrome) (1907)

第4世代(20世紀前半～後半)

- ・多層乳剤発色現像方式フィルム(コダクローム Kodachrome) Chromogenic Film (1935)
- ・多層乳剤発色現像方式プリント Chromogenic Print (1939)
- ・高感度乳剤白黒フィルム<ASA200～400> (1953-54)

↑ 銀塩写真(AgX photography, Photochemical process)

↓ デジタル・エレクトロニクスによるイメージング(Digital-electronic process)

第5世代(20世紀末～)

- ・デジタルカメラ<固体撮像素子 CCD/IC カード記録> フジックス DS-1P (1988)
- ・インクジェットプリント<写真画質> エプソン PM-700C (1996)